

計画の位置付けと策定経過

1 金沢ささえあいプランの位置付け

社会福祉法第107条の規定に基づき、市町村が策定するよう努めるとされている「地域福祉計画」に位置づけられますが、横浜市では「保健」を加え、福祉と保健の取組を一体的に推進しています。

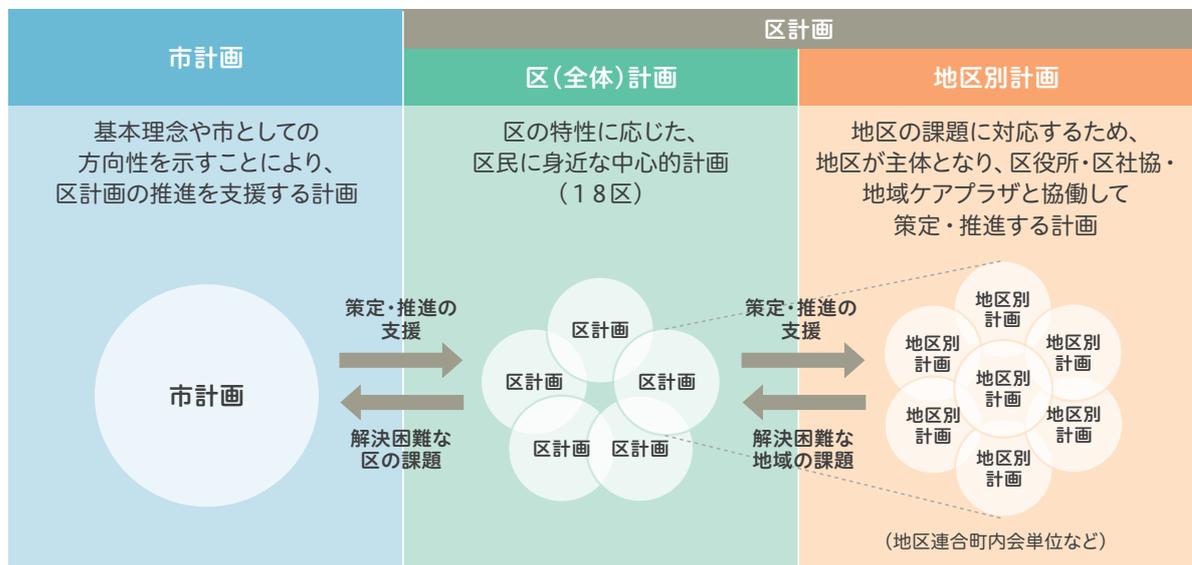
また、全国社会福祉協議会が策定した地域福祉活動計画策定指針に基づいて、社会福祉協議会が策定・推進する「地域福祉活動計画」があります。この計画は地域の住民や関係機関・団体が主体となり地域福祉の向上を目指すための計画ですが、「地域福祉保健計画」と「地域福祉活動計画」は、地域福祉の推進を目的とするなどの共通部分も多いため、第2期金沢区地域福祉保健計画からは、一体的に策定・推進しています。

	H8 ~ 17	H18 ~ 22	H23 ~ 27	H28 ~ R2	R3 ~ R7	R8 ~ R12
区役所		第1期地域福祉保健計画	第2期地域福祉保健計画 (一体的に推進)	第3期地域福祉保健計画	第4期地域福祉保健計画	第5期地域福祉保健計画
区社協	第1次地域福祉活動計画	第2次地域福祉活動計画				

2 市計画との関係

横浜市の地域福祉保健計画は、市計画と18区の区(全体)計画で構成されています。

「市計画」は、市としての方向性を示す計画、「区計画」は区の特성에応じた区民に身近な計画、「地区別計画」は、地域の課題に対応するため地域で生活をする人が主体となり、区役所・区社協・地域ケアプラザが協働して策定・推進する計画です。3つの計画はそれぞれに密接に連携しながら地域の課題解決に向けた取組を進めていきます。

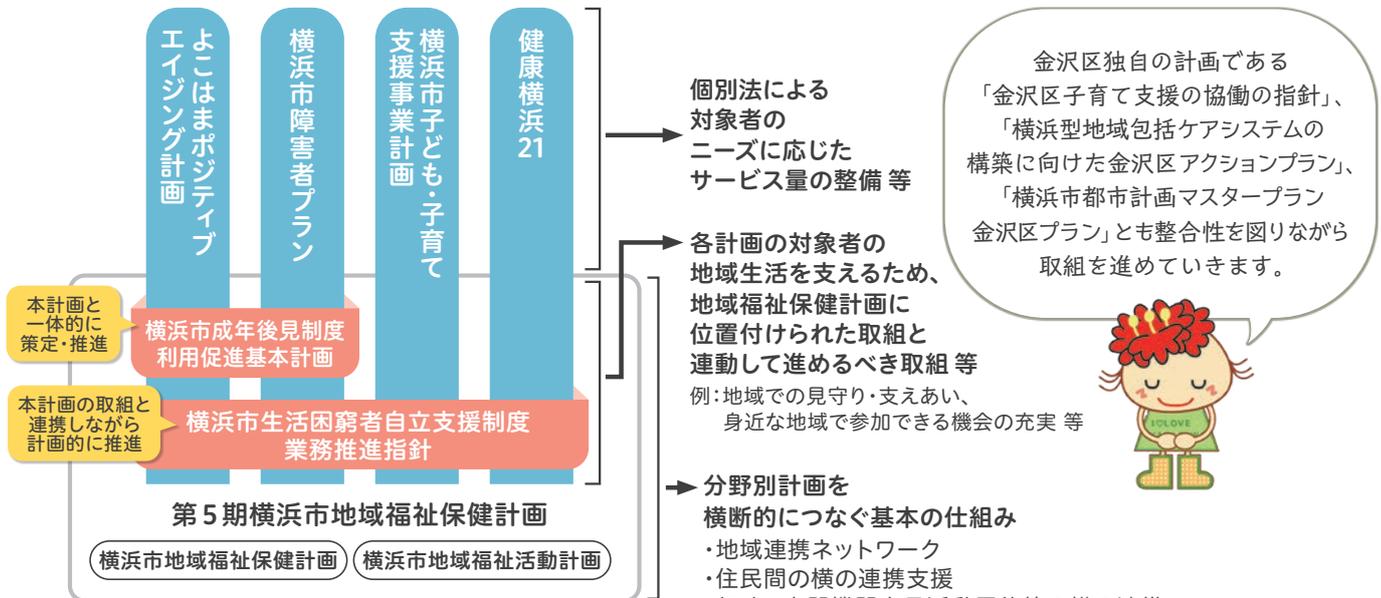


3 他分野計画との関係性

地域福祉保健計画は、地域の視点から高齢者、障害のある人、子ども・若者等の対象者や、保健や健康に関する分野別計画に共通する理念、方針及び取組推進の方向性等を明示し、対象者全体の地域生活の充実を図ることを目指しています。

また、各分野別計画に掲げた事業や地域活動支援は、地域福祉保健計画と連動して取組を進めることで対象者の地域生活の充実を図っていきます。

■ 主な福祉保健の分野別計画との関係



【地域福祉保健計画に関する計画】

- ・横浜市自殺対策計画 ・横浜市子どもの貧困対策に関する計画
- ・横浜市教育振興基本計画 ・横浜市再犯防止推進計画 ・横浜市人権施策基本指針

column
コラム

SDGs (持続可能な開発目標)の視点を踏まえた計画の推進

- SDGs (エス・ディー・ジーズ)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて掲げられた、2016年から2030年までの国際目標です。
- SDGsでは「誰一人として取り残さない」を基本理念に、環境・経済・社会の諸課題を統合的に解決し持続可能な世界を実現するため、17の目標が掲げられています。
- 「横浜市中期計画 2022～2025」では、国から選定を受けた「SDGs未来都市」として、あらゆる施策においてSDGsを意識して取り組んでいくこととしています。
- SDGsの17の目標は、世界の都市に共通した普遍的な課題です。「誰一人取り残さない」という考えは、「誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせるよこはま」の実現という、横浜市地域福祉保健計画が掲げる理念にも当てはまるものです。
- また、SDGsは、「インクルーシブ社会(多様性を認め、尊重しあい、共に支えあうことができる社会)」の考え方と共通し、「地域共生社会」の実現を目指すことにもつながります。
- そのため、横浜市地域福祉保健計画の推進にあたっては、SDGsを意識して取り組み、地域住民や地域の多様な主体の連携・協働によって、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らすことのできる地域社会の実現を目指します。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



4 策定経過

年度	月	区計画	地区別計画
令和5 (2023)	4～6	令和5年度金沢区区民意識調査※6	令和5年 春期地区推進連絡会 令和4年度の振り返り
	7～9	地域福祉計画推進プロジェクト ●第4期計画中間評価の検討	
	10～12	地域福祉保健計画推進委員会 (地域福祉保健推進会議) ●第4期計画中間評価の検討	令和5年 秋期地区推進連絡会
	1～3	当事者・団体インタビュー※7	第4期計画 中間振り返り
令和6 (2024)	4～8	地域福祉保健計画推進プロジェクト ●第5期計画骨子案の検討 第1回地域福祉保健計画推進委員会 ●第5期計画骨子の確定	
	9～1	地域福祉保健計画推進プロジェクト 第2回地域福祉保健計画推進委員会 (地域福祉保健推進会議) ●第5期計画素案の検討	第5期計画の検討
	2～3	中学生の意見募集 ●第5期計画素案の確定	
令和7 (2025)	4～5	第5期計画素案に対する区民意見募集	
	6～8	地域福祉保健計画推進プロジェクト 地域福祉保健計画推進委員会 ●区民意見募集の結果報告 ●第5期計画原案の検討	
	9～11	第5期計画の確定	第5期計画の確定
	12～2	冊子の校正・印刷	リーフレットの校正・印刷
	3	第5期計画公表	第5期計画公表

各
地区
にて
地区
推進
連絡
会等
を通
じた
第5
期計
画の
検討

※6・7については62ページをご覧ください。

福祉・保健・医療団体関係者及び有識者で構成され、地域福祉保健計画の策定・推進・評価について意見交換を行う委員会です。



▲ 推進委員会の様子

委員名簿(令和6・7年度)

(五十音順・敬称略)

	委員名	所属	分野
1	荒井 宏明 (令和7年度)	横浜市立釜利谷小学校校長	学校関係者
	清水 康男 (令和6年度)	横浜市立並木第四小学校長	
2	有本 梓	横浜市立大学大学院医学研究科 地域看護学分野 教授	学識経験者
3	榎田 卓央	横浜市立並木中学校校長	学校関係者
4	木下 眞佐美	能見台地域ケアプラザ所長	社会福祉関係施設の職員
5	佐々木 画生	金沢区社会福祉協議会理事 (障害者支援施設 航 施設長)	社会福祉関係施設の職員
6	清水 啓作	公募委員	金沢区民
7	鈴木 正徳	金沢南部地区連合町内会会長	自治会町内会関係者
8	関根 とみ江 (令和7年度)	金沢区民生委員児童委員協議会副会長	地域福祉活動関係者
	鈴木 節子 (令和6年度)	金沢区民生委員児童委員協議会副会長	
9	三輪 律江	横浜市立大学国際教養学部都市学系 大学院都市社会文化研究科 教授	学識経験者
10	森 圭子 (令和7年度)	金沢区保健活動推進員会副会長	地域保健活動関係者
	高松 礼子 (令和6年度)	金沢区保健活動推進員会副会長	
11	柳下 道晴	金沢区三師会総合事務局事務長	医療・保健関係者

6

※6 金沢区区民意識調査

- (1) 調査対象：金沢区内にお住まいの18歳以上の人3,000人
 (2) 抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出
 (3) 回答数：1,680票(回答率56.0%)
 (4) 調査期間：令和5年5月18日～6月12日
 (5) 調査方法：郵送による配布、郵送による回収及びWeb回答
 (6) 調査項目：身近な地域の暮らしやすさ、心配ごとや困っていること、地域活動への参加状況、顔見知りの関係を築くために取り組めること等



▲ 区民意識調査の詳細はこちらから



◀ 横浜市衛生研究所

区民意識調査結果のうち、福祉・保健に関わる分析や検定は金沢区にある『横浜市衛生研究所』にて実施をしています。

ぼたんちゃんを知っている人の方が、「暮らしやすい」、「健康だと思おう」って答える割合が高かったみたいだよ！
 広報紙やイベントなどでぼたんちゃんを探してみてね♡



7

※7 当事者・支援者へのインタビュー

(1) 対象者：以下の人及び支援者 計24人

① 障害関連

肢体不自由者、日中活動系サービス・グループホーム・就労移行支援事業所・中途障害者地域活動センターの利用者及び職員

② 養育者関係

障害のあるこどもの養育者、地域子育て支援施設の職員

③ その他

介護者及び支援者、外国につながる人及び支援者

(2) インタビューの内容

テーマ：「地域でこれからも暮らし続けていくために」

【当事者】 ● 生活する中で困っていること(買い物、公共交通機関など)

● 地域との関係性(挨拶や会話、地域行事への参加、把握方法、出来たら嬉しいことなど)

【職員】 ● 利用者・相談者の傾向

● 地域との連携について(実際にやっていること、これからやってみたいこと)